重点「道の駅」38箇所選定

国土交通省は、地方創生に資する地産地消の促進及び小さな拠点の形成等を目指した「道の駅」の新たな設置又はリニューアル等に関する企画提案を募集し、有識者の意見を踏まえ、重点「道の駅」として38箇所選定した。

主な取組内容	都道府県	市町村	駅名	主な特長	
産業振興	岩手県	宮古市	たろう	水産物の直売や6次産業化による漁業復興・再生の拠点。	
	茨城県	常陸大宮市	常陸大宮	全国でも生産量の少ない洋野菜の地産地消及びブランド化の推進。	
	山梨県	都留市	(仮称) つる	地域伝統野菜の加工品開発による6次産業化。	
	千葉県	旭市	季菜里あさひ	基幹病院等と連携し「医食農同源」をテーマに、豊富な地元農水産物を活用した地産地消の推進。	
	長野県	佐久市	(仮称) さくみなみ	健康長寿をテーマに、健康長寿野菜や健康長寿食の提供による地産地消の推進。	
	富山県	黒部市	(仮称) くらべ	豊かな農産物と希少な海産物を活用した6次産業化の拠点。	
	三重県	御浜町	パーク七里御浜	柑橘加工商品の開発と6次産業化の推進。	
	滋賀県	長浜市	浅井三姉妹の郷	起業や商品開発をサポートする「チャレンジショップ」の設置による地産地消型産業の振興。	
	京都府	南山城村	(仮称) 南山城村	「村で暮らし続けるための仕掛け作り」として、特産品である南山城茶を活用した商品開発。	
	大阪府	河南町	かなん	なにかの伝統野菜を使った商品を開発・提供するための施設整備。	
地域福祉	鳥取県	琴浦町	(仮称) ことら	隣接する既存の道の駅との機能分担及び連携し、地元特産品を活用した6次産業化など地産地消の推進。	
	徳島県	美馬市	(仮称) 美馬	地元農水産物の集出荷システムを活用した産地直売所の設置や地域野菜を活用した6次産業化推進。	
	沖縄県	宜野座村	ぎのぞ	宜野座エコ農産物や人材資源等を活用し「食育・地産地消活動」の促進。	
	青森県	横浜町	よこはま	周辺施設を活用し、地方創生拠点を形成する自動車専用道路IC直結の道の駅。	
	福島県	飯館村	(仮称) まいで館	原発災害からの帰還時の日常生活を支える、役場や医療機関等と連携した復興拠点。	
	群馬県	下仁田町	しもにた	買い物困難者への宅配サービス提供、子育てサポート、公共交通バスの結節点化などによる「小さな拠点」の形成。	
	新潟県	田上町	(仮称) たがみ	道の駅周辺に公共サービスと生活サービス機能を集約。道の駅と集落地域等を結ぶ公共交通・宅配サービスの導入。	
	長野県	阿南町	信州新野千石平	高齢者への宅配サービスを通じた買物支援や安否確認、町民バスと連携した中山間地の生活支援。	
	岐阜県	郡上市	明宝	NPOと連携した日用品の配達及び生活支援サービスによる高齢者支援。	
	岐阜県	下呂市	飛騨金山 ぬく森の里温泉	病院・老人福祉施設等の地域福祉機能等の集約、コミュニティバスや高齢者宅配サービス等による小さな拠点機能の向上。	
交通結節点	奈良県	葛城市	(仮称) かつらぎ	高齢者の交通手段確保のためのコミュニティバス運行、ICTを活用した買い物支援。	
	山口県	周南市	ソレーネ周南	高齢者の相談窓口の設置、バスの整備による、地域住民のサポート体制の構築。	
	福岡県	八女市	たちばな	地域福祉の向上と地域住民の安全安心な地域コミュニティ再生による行政サービス機能の充実	
	長崎県	東彼杵町	彼杵の荘	障害者支援施設が行う移動販売車による買物支援と農産物の集荷・販売システムの確立。	
	北海道	士幌町	ピア21しほろ	長距離バス、路線バス、地域コミュニティバスの結節点として機能。	
	福井県	小浜市	若狭おばま	交通結節点機能強化(バスターミナル機能拡張、パーク&ライド)による観光促進。	
	三重県	大台町	奥伊勢おおい	JR、高速バス、路線バスの結節点における行政、文化、観光、医療サービス拠点の形成。	
	宮崎県	延岡市	北川はゆま	コミュニティバスの乗入れや高速バスストップの設置、パーク&ライド機能を備えた乗継拠点。	
	防災	愛知県	豊橋市	(仮称) とよはし	南海トラフ地震等に備えた防災活動拠点。
	観光総合窓口	福井県	勝山市	(仮称) 恐竜深谷 ジオパーク	県立恐竜博物館等を活かした観光・交流拠点。コミュニティバスによる周遊観光。
インバウンド観光	京都府	京丹後市	丹後王國 食のみやこ	丹後地域の観光資源、地域食材等を紹介する観光等総合窓口。	
	秋田県	能代市	ふたつ	世界遺産「白神山地」の玄関口として、多言語化に対応したインバウンド観光案内所(スタッフ・ガイド)を配置。	
	北海道	厚沢部町	あつさぶ	日本版CCRCとの連携により高齢者移住や、新規就農による移住・定住促進に向けた情報発信や総合案内。	
地方移住等促進	群馬県	上野村	上野	移住窓口を設置するなど道の駅を中心に移住・雇用対策を展開。	
	香川県	三豊市	たからたの里 さいた	道の駅の観光ポテンシャルを活かした移住促進(移住コンシェルジュによる相談窓口設置、移住体験ツアー開催等)。	
	熊本県	阿蘇市	阿蘇	消防署、医療センター等と連携した「小さな拠点」の形成。空き家バンク制度を活用し、移住定住等を促進。	
交流・連携	滋賀県	竜王町	竜王かみの里・アグリパーク竜王	土産土法を取組む2駅(集客力のある駅と農産生産力のある駅)連携で推進。	
	広島県 島根県	三次市 雲南市、飯南町	国道54号沿線 道の駅	自動車道の開通により交通量が減少した国道54号沿線の4つの道の駅の相互連携による、地域の暮らしを持続的に支える環境構築。	

平成27年度道路関係補正予算配分概要

平成28年1月20日に平成27年度補正予算が成立し、道路関係補正予算の配分方針は、一般公共事業に關しては、災害復旧その他緊急に必要な対応を行うため、平成27年9月関東・東北豪雨等の大規模災害からの復旧、自然災害リスクが高い地域における緊急防災対策等に必要経費が計上されたところであり、配分に当たっては、追加の趣旨を十分踏まえ、「道路の緊急防災事業」について、地域の実情や地方公共団体の要望等を勘案しつつ、重点的かつ効率的な配分を行うこととしている。

【事業別概要】
○災害復旧・防災減災事業
○災害復旧・防災減災事業への対応
○道路の緊急防災事業
○2,078百万円
豪雨等による自然災害リスクを回避するため、災害時の安定的な道路交通を支える代替路等の整備を推進。

平成28年度「道路ふれあい月間」を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動の推進に努めているが、この一環として、平成28年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集する。

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設だが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過されがちである。そこで、推進標語の募集を通じて、道路の役割や重要性を改めて認識し、道路を常に広く、美しく、安全に利用していただくことを目的としている。

【募集資格】
小学生以上
【応募期間】
平成28年3月31日(木)まで(当日必着)
【応募部門・賞】
【小学生の部】
最優秀賞1作品、優秀賞2作品
【中学生の部】
最優秀賞1作品、優秀賞2作品
【一般の部(高校生以上)】
最優秀賞1作品、優秀賞2作品

3月31日(木)まで

道路は、生活の向上と経済の発展に欠くことのできない国民共有の、つまりみんなの財産です。みんなが道路と親しみ、ふれあい、常に広く、美しく、安全に、共に楽しく利用し、次世代に受け継いでいきたいと思います。

【表彰】
「道路ふれあい月間」期間中に国土交通省から賞状及び楯を贈呈。
【参考】平成27年度推進標語・最優秀賞
【小学生の部】
「あいつの 大きな声が びびく道」
【中学生の部】
「もういいかい 指差し確認 まあだだよ」
【一般の部(高校生以上)】
「いい出会い いい道からの 贈り物」
【主催】
国土交通省

平成28年度「道路ふれあい月間」推進標語募集

【応募方法】
1人何作品でも応募可能。
◇はがきによる応募の場合
はがきに、標語と必要事項〔氏名、フリガナ、住所、電話番号、性別、年齢、応募部門の別〕及びアンケート(何を見て応募したのか(回答は任意。))を記載のうえ、郵送。(郵送先)
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
国土交通省道路局道路交通管理課 標語担当あて
◇電子メールによる応募の場合
①電子メール本文に、標語と必要事項〔氏名とフリガナ、住所、電話番号、性別、年齢、応募部門の別〕及びアンケート(回答は任意)を記載のうえ、fureaigekkan-h2x5@mlit.go.jp に送信。
②国土交通省ホームページの応募様式に記入の上、電子メールに添付して応募することも可能。
◇小学校・中学校単位での応募の場合(学年・クラス単位含む)
①小学生・中学生については、学校単位での応募が可能。学校単位で作品をとりまとめるうえ、封書にて郵送。
②国土交通省ホームページの応募様式に記入の上、電子メールに添付して応募することも可能。
※応募作品の返却はしない。
※入賞作品の著作権は主催者に帰属する。
※本募集で取得した個人情報、入賞の作品の連絡、発表、表彰式の案内にのみ使用し、それ以外の目的に使用しない。

詳しくは国土交通省ホームページで
http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000608.html

振

阪神・淡路大震災から21年。東日本大震災からまもなく5年。そして、今後起こることを想定されている南海トラフ地震に備え、更なる防災強化が重要になってくる。

東日本大震災での甚大な津波被害をふまえ、津波被害から国民の生命、身体・財産を保護することを目的に制定された「津波対策の推進に関する法律」により、広く津波対策についての理解と関心を深めることを目的として、毎年11月5日を「津波防災の日」と定めている。また、この日は昨年、日本の提案により国連でも全会一致で採択され今年から「世界津波の日」と定められた。この日は、1854年に中部地方から九州地方の太平洋沿岸を大きな津波が襲った安政南海地震の発災の日である。この地震により大津波が和歌山県広村を襲った際、濱口梧陵が収穫されたばかりの稲むらに火をつけ

南海トラフ地震に備えて

暗闇の中で逃げ遅れていた人々たちを高い台に避難させ命を救った「稲むらの火」の逸話にちなんでいるように、9月1日の防災の日を含め、このように次の世代に継承するために、教訓や訓練を通じて、防災意識の低下防止や、発災後の円滑かつ適切な行動がとられるための機会として意義は大きい。

内閣府は、南海トラフ地震が30年以内に発生する確率を70%と予測しており、この地震・津波は中部から近畿・四国・九州にかけて極めて広範囲で強い揺れと巨大な津波が想定されている。また、南海トラフ地震が発生した場合の避難者は、四国だけで東日本大震災の約4倍近い約150万人を超える想定がなされている。

現在、全国の高速度道路ネットワーク

クは順次整備され、我が国の大動脈の役割を果たしている。日常生活はもろろん、業務や観光など様々な目的で利用され、中には代替路線のない区間や、水道、電気、通信設備などが設置され、地域の生活基盤としての役割が重要課題となっている。

南海トラフ地震が発生した場合、道路は、被災者の人命救助、支援や復旧・復興のために重要な役割を担っており、本州と四国を結ぶ本四高速度道路は代替路線がないことから、防災上の重要性が非常に高い道路である。

東日本大震災では、被災地での人命救助・物資輸送のための「縦軸・横軸ライン(くしの歯)」を整備し被災地へのアクセスを確保した。近い将来と想定されている南海トラフ地震が発生した場合、四国での救助作業や復旧支援のため、本州から四国に渡る車両や多くの人・物資を早期に投入する必要がある。そのために本四高速度道路の災害を最小限にするにとともに、災害が発生しても迅速

て機能している貴重な命の高速度道路もある。これらの道路の機能が長時間にわたって停止した場合には、社会経済活動に重大な影響を及ぼし、復旧にも支障が生じることとなる。そのため、道路が役割を果たせるよう

震が発生した場合、四国での救助作業や復旧支援のため、本州から四国に渡る車両や多くの人・物資を早期に投入する必要がある。そのために本四高速度道路の災害を最小限にするにとともに、災害が発生しても迅速

災害はいつ起こるか分からない。9月1日の防災の日、11月5日の津波防災の日、世界津波の日には当然であるが、この日以外にも、訓練の形骸化を防ぐため常日頃から様々なテーマを想定した防災訓練やミニBCP訓練等の実施により行動計画・要領・機材等の点検や見直しを行い、予期せぬ災害発生時にも効率的に対応できるように、防災意識を高め災害に備えることが重要である。

(単位: 百万円)

区分	「緊急防災事業」			国庫債務負担行為(ゼロ国債)			合計		
	本省配分	一括配分	計	本省配分	一括配分	計	本省配分	一括配分	計
直轄事業	38,761	6,600	45,361	115,889	59,338	175,227	154,650	65,938	220,588
補助事業	46,717	0	46,717	1,960	0	1,960	48,677	0	48,677
合計	85,478	6,600	92,078	117,849	59,338	177,187	203,327	65,938	269,265

(注) 事業費ベース
※この他に、防災・安全交付金(国費997億円)があり、地方の要望に応じて道路整備に充てることができる。

【応募方法】
1人何作品でも応募可能。
◇はがきによる応募の場合
はがきに、標語と必要事項〔氏名、フリガナ、住所、電話番号、性別、年齢、応募部門の別〕及びアンケート(何を見て応募したのか(回答は任意。))を記載のうえ、郵送。(郵送先)
〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3
国土交通省道路局道路交通管理課 標語担当あて
◇電子メールによる応募の場合
①電子メール本文に、標語と必要事項〔氏名とフリガナ、住所、電話番号、性別、年齢、応募部門の別〕及びアンケート(回答は任意)を記載のうえ、fureaigekkan-h2x5@mlit.go.jp に送信。
②国土交通省ホームページの応募様式に記入の上、電子メールに添付して応募することも可能。
◇小学校・中学校単位での応募の場合(学年・クラス単位含む)
①小学生・中学生については、学校単位での応募が可能。学校単位で作品をとりまとめるうえ、封書にて郵送。
②国土交通省ホームページの応募様式に記入の上、電子メールに添付して応募することも可能。
※応募作品の返却はしない。
※入賞作品の著作権は主催者に帰属する。
※本募集で取得した個人情報、入賞の作品の連絡、発表、表彰式の案内にのみ使用し、それ以外の目的に使用しない。

詳しくは国土交通省ホームページで
http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000608.html